



夢十五夜

明日は十五夜ですが、この時期になると思い出すお話があります。みなさんの中にも知っている人がいると思いますが、英語教師をしていた頃の夏目漱石が、「I LOVE YOU」を「我君を愛す」と翻訳した教え子を見て、「日本人はそんなことは言わない。月が綺麗ですねとでも訳してみなさい」と言ったという話です。もちろん真実ではありませんが、彼ならこんなことを言うのではないかなと思わせる話です。

英語と日本語は全く違った文化の中で発達してきた言語なので、そのまま単語を置き換えても真意がつかめないことがあります。英語をそのままの形で本当に理解するには、彼らと同じ文化背景を持たなければならないからです。そこで英語を日本人に理解できるようにと昔の人々は苦勞して日本語に変換していました。例えば明治時代には英語の概念を日本語に取り入れるときに個人(individual)、哲学(philosophy)、社会(society)、時間(time)など新しく言葉を作りました。彼らの努力があったからこそ、私たちは新しい概念を理解し、独自に発達させることが出来たのだと思います。

このように自分が使っている言葉はとても大切です。言葉によって曖昧だったことがはっきりしていくのです。みなさんは今とても大変な時期を迎えています。十五夜の日には勉強している手を少しだけ止めて、夜空を眺めてみてください。そして、綺麗な満月を眺めながら、自分の夢を言葉にしてみましょう。自分の中に埋まっている夢を言葉という鑿で掘り出すのです。想いを言葉にし、そして実現していきましょう。

3年次主任 小笠原 宏

勇気を持って、前に進もう！

10月～11月は受験生にとって、最もきつい時期になります。模試が目白押しで、しかもその模試の難易度が一気に入試レベルにあがって難しく感じるからです。また、これまでに実施された模試の結果が続々と返却されてきて、現実を突きつけられることも一因です。でもこれは受験生なら誰もが通る道です。大切なのは、やるべきことを今まで通りにしていくことです。睡眠時間をしっかり確保する。遅れず、休まず学校に来る。授業を一生懸命受けて、友達とふれあい、休み時間にはリラックスする。実力は着実に付いているはず。分からないことに会っても、焦らずに貪欲に新しい知識を取り入れてみよう。勇気を持って、前に進みましょう。みなさんには、友達も、家族も、先生方もついています！

10月 行事予定

日	曜日	A/B	予 定	日	曜日	A/B	予 定
1	日		更衣基準日	16	月	A	
2	月	B	きずなの日 後期始業式 大掃除(球技大会) 自転車ステッカー点検実施週間	17	火	B	
3	火	B	部集会(球技大会)	18	水	B	
4	水	B		19	木	B	
5	木	B	健康の森ウォーキング事前健康相談	20	金	B	報告会・生徒総会 ヘネッセ・駿台共催記述模試(3)
6	金	B	健康の森ウォーキング大会事前指導 委員会集会	21	土		ヘネッセ・駿台共催記述模試(3)
7	土		土曜講座(1,2,3)	22	日		
8	日			23	月	A	
9	月		体育の日	24	火	A	
10	火	A		25	水	A	
11	水	行	第21回健康の森ウォーキング大会	26	木	A	
12	木	A	第21回健康の森ウォーキング大会予備日	27	金	A	
13	金	A	第2回生活実態調査	28	土		土曜講座(1,2,3)
14	土			29	日		
15	日		全統記述模試(3)外	30	月	B	
				31	火	B	

保護者のみなさまへ

いよいよ9月26日からセンター試験の出願が始まりました。例年通り、10月初旬の大安吉日を選んで、学校一括で出願いたします。前述したように、10月～11月は受験生にとって、最もつらい時期となります。夏明け以降の模試では、浪人生、中高一貫校の生徒、さらにトップクラスの難関校の生徒が次々と模試に参加してきますので、相対的な数値である偏差値は以前より厳しくなる傾向にあります。生徒たちはこの状況下で自己との、そして全国のライバルとの戦いに日々奮闘しています。ご家庭でもお子さまの話に耳を傾けると共にぜひ励ましてあげていただきたいと思います。生徒にとっては身近にいるご家族の理解はなによりうれしいものだと思います。我々職員も暖かく丁寧に説明する姿勢で指導をしていく覚悟です。引き続き、御理解と御協力をお願い申し上げます。

◎今月は、4組副担任理科の三井 恒弘先生の寄稿を掲載します。

「鮪と人間」

ボクの子供は「マグロ」が好物である。息子が受験前日は、いつもネクタイをしている店主の魚屋さんへ定休日と気づかず飛び込んだ(笑)。その店主のお孫さんも受験ということもあり休日にもかかわらずマグロを鉄火丼用に切ってくれたことは今でも感謝だ。そうボクの子供たちはマグロで大きくなったともいえるのだ。

昨年、原因不明の大量死で話題となった東京の葛西臨海水族館。現在は新しいマグロたちが元気に泳ぎ回っているそうであるが、ホントここは「マグロ水族館」なのである。息子がまだマグロを食べたことがない頃、本当は八景島シーパラ目的のお出かけだった。しかし首都高でなぜか大きく左に旋回(笑)辿り着いたのがその水族館だった。でも、そこで大きな水層を目の前にした時、息子とボクはそのマグロ達の雄姿に魅了された。視界の右端から左端まで猛スピードで移動するでっかいマグロは、まさに“質量の移動”であった。そこで購入した本によると、マグロは死ぬまで泳ぎ続けるそうである。つまり止まるときは死ぬ時なのだ。マグロは自らエラを動かすことができないため、泳ぎ続けることによって海水を取り込み、新鮮な酸素を体内に吸収させなければならないそうなのだ。もうひとつ、見ていて気付いたのが、小さい熱帯魚なんかはクルクル回っているのに対して、マグロは180°の方向変換をしない(できない?)のである。つまり、

“マグロは「泳ぎ続け、振り向かない」のである”

「マグロのようにカッコ良く生きたい！」まさに10月からの日曜9:00。悟空・ルフィ・ビルド・キュウレンジャー、あっ8:30で変わらないプリキュアも(笑)。君たちも一度は憧れたヒーロー・ヒロイン達のように。でも、

“君たちは人間だ！”

マグロのように生きているわけでない。生物学上の「生きる(子孫を残す)」という意味では同じであるとは思いますが、マグロに「後悔」はない(たぶん)。そう、人間は後悔する生き物なのだ。“なりたい自分になるため”に今こうやって勉強してきて、これからもそのために生きていくのだ。

進路って進む路(みち)って書く。ということは一步一步自分で進んでいくって事なのである。次の一步を踏み出す時どっちに踏み出すか？そう、自分の進みたい方向へ踏み出すのだ。自分の進むべき路へ踏み出すのだ。その一步を間違えないためにどうするか？そう、

“たまには振り返れ！”

4月に校長先生もいっていた。自分の踏みしめてきた足跡をしっかりと確認して、確実に次の一步を踏み出すのだ。

想像してみてください!! 振り向いたマグロのキラリとした眼を。カッコイイかも。